

# 「これからの中学校英語科における授業づくり～評価問題編～」の見方

各領域における「英語の目標」を示しています。

## 授業が変わる！評価が変わる！ これからの中学校英語科における授業づくり ～評価問題編～

今年度から学習指導要領が全面実施され、学習評価の在り方が変わります。それに伴い、評価問題も変わります。そこで、本コンテンツでは、**評価問題の改善ポイント**について、**具体例**を示しながら説明します。ここでは、**理解の領域**（「聞くこと」及び「読むこと」）について示します。

### 1 英語の目標

評価問題作成の際には、まずは英語の目標を確認することが大切です。「聞くこと」及び「読むこと」の目標を以下に示します。

聞くこと	ア	はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
	イ	はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。
	ウ	はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。
読むこと	ア	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。
	イ	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。
	ウ	社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説【外国語編】 pp.18-26 を基に作成

### 2 各観点において評価すること

理解の領域（「聞くこと」及び「読むこと」）において、各観点で評価することは以下のとおりです。

観点	評価すること
知識・技能	話されたり書かれたりしている内容を正確に聞き取ったり読み取ったりできるかを評価します。
思考・判断・表現	話されたり書かれたりしている内容を聞き取ったり読み取ったりした上で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、「必要な情報」や「概要」、「要点」を捉えることができるかを評価します。
主体的に学習に取り組む態度	基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価します。 ※言語活動で表出された態度を見取ります。

「知識・技能」における内容とは、話されたり書かれたりしている英語そのものを指します。

「各観点において評価すること」を示しています。

「評価問題作成のポイント」を具体的に示しています。

### 3 評価問題作成のポイント

- ① 「聞くこと」及び「読むこと」の目標を確認します。
- ② 出題する問題により評価すること（「知識・技能」の評価問題 / 「思考・判断・表現」の評価問題）  
【必要な情報を捉える問題、概要を捉える問題、要点を捉える問題】を明確にします。
- ③ 「知識・技能」の評価問題においては、特定の言語材料<sup>※1</sup>を使用して作成する必要があります。
- ④ 「思考・判断・表現」の評価問題においては、特定の言語材料を必ず使用しなければならないわけではありません<sup>※2</sup>。
- ⑤ 「思考・判断・表現」の評価問題においては、読まれたり書かれたりした英文の「必要な情報」「概要」「要点」を捉えることができるかを問います。そのため、それぞれを評価することに適したテキストの種類を選択することが大切です。

評価すること	テキストの種類
必要な情報	広告、パンフレット、予定表、手紙、電子メール等
概要	時系列で書かれた短い説明、意見文、エッセイ、物語等
要点	社会的な話題に関する説明文、意見文、手紙、電子メール等

(注1) 特定の言語材料とは、該当単元や該当学期において扱った言語材料を示します。  
(注2) しかしながら、特定の言語材料が必然的に使用されるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを工夫することは大切です。

### 4 「聞くこと」における評価問題

(1) 「知識・技能」の評価問題  
「聞くこと」における「知識・技能」は、話された内容を正確に聞き取ることができるかを評価します。評価問題を以下に示します。

【例1：音文の問題】

① (※注問題)  
話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選ぼう。

(1)

(2)

(3)

(4)

(スクリプト)  
I get up at six every Sunday and take my dog for a walk.

平成 31 年度 全国学力・学習状況調査より

各領域における「『知識・技能』及び『思考・判断・表現』の評価問題」を紹介しています。

学習指導要領の趣旨を踏まえ、改善が必要な評価問題を「NG 問題」として示しています。

学習指導要領の趣旨を踏まえ、改善が必要な点を「NG ポイント」として示しています。

「評価問題見直しのポイント」を示しています。

**ポイント**

① 従来のリスニングテストにおいては、放送が2回繰り返されていましたが、これからは実際のコミュニケーションの場面と同様、1回とします。

② 「聞くこと」の目標「必要な情報」「概要」「要点」を捉えることに対応した評価問題を作成することが大切です。

**NG** 【「聞くこと」の目標に対応していない評価問題】

例：【指示文】ブラジルから来た留学生のアナ（Anna）が自分の国の学校生活についてスピーチしています。その内容と合っていないものを、アからエの中から選んで、記号で答えなさい。

（スクリプト）  
Hello, everyone. I'm Anna from Brazil. In Brazil, we go to school by car or bus. We have five classes in the morning or in the afternoon. I have classes from 7 o'clock to 11 o'clock. I leave school around twelve, so I have lunch with my family. I don't have lunch at school.


ア Students in Brazil go to school by bike.  
イ Students in Brazil have six classes in a day.  
ウ Anna has classes from 7 o'clock in Brazil.  
エ Anna has lunch with her family in Brazil.

**NG ポイント**  
 Annaのスピーチの内容と合っていない選択肢を選ぶ問題（間違え探し）になっている。

**改善ポイント** 【指示文】と選択肢を change! スピーチの流れに沿って3枚の絵を並べるようにし、概要を捉える問題に!

**OK**

例：【指示文】英語の授業で、ブラジルから来た留学生のアナが自分の国の学校生活について、次の3枚の絵を見せながら発表します。アナはア、イ、ウの絵をどのような順番で見せるでしょうか。正しい順番になるように、1つずつ絵を選んで、その記号を書きなさい。



令和2年度 佐賀県学習状況調査より

どのように改善すればよいか分かる「改善ポイント」を示しています。

改善ポイントに従って修正した評価問題を「OK 問題」として示しています。


**6 評価問題見直しのポイント**  
評価問題を作成したら、その適切さを見直すことが大切です。評価問題見直しのポイントを以下に示します。

**チェック**

- 評価したいことを適切に問う内容や構成になっているか。  
例：評価したいことが「要点を捉えること」である場合、話し手や書き手の伝えたいことが確実に示されているか
- 当該学期や当該学年で扱った言語材料が使用されているか。
- 背景知識がある生徒に有利な内容になっていないか。
- 聞いたり読んだりしなくても解答できる内容や問いになっていないか。  
例：特定の語句や文の意味が分かれば解ける問題になっていないか
- 未習の語や文構造はないか。  
ただし、文脈によって意味の推測が可能で、解答に関連しない箇所ならば使用することは考えられる
- 問題文や指示文は、分かりやすい文章で、誤解が生じない表現になっているか。
- 「知識・技能」の評価問題において、実際のコミュニケーションの場面が設定されているか。
- 「思考・判断・表現」の評価問題において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況が具体的に設定されているか。
- 選択式の場合、誤答の選択肢の中に正答になりうるものはないか。
- 他の問題の答えを示している問題はないか。

例：問1 Aはオーストラリアに行きましたか  
問2 Aはオーストラリアで何をみましたか  
※この場合、問2を見ると、Aがオーストラリアに行ったことが分かる

親子問題（問1が解けないと問2も解けない）になっていないか。 など



先生方が評価問題を作成する際に御活用いただければ幸いです。

